

# 民主島根

2020年  
**6.21**  
第1362号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 新型コロナ “自粛と一体の補償を” 中小業者、医療・介護支援は急務

### 尾村県議らが商工・医療団体、介護施設と懇談

#### 県中小企業団体中央会 松江商工会議所

日本共産党の尾村利成県議、松江商工団は4日、県中小企業団体中央会と松江商工会議所を訪れ、意見交換しました。  
県中小企業団体中央会の中村光男専務理事は「持続化給付金や雇用調整助成金の申請などあらゆる相談に応じている。業者への支援が早く届かなければならない」との懸念を示しました。



中村専務理事、荒田裕司事務局長(中小企業診断士)、小林睦人事務局次長(中小企業診断士)と懇談(県中小企業団体中央会)



松浦専務理事、近藤達郎常務理事、高尾健司事務局長、金井寿彦中小企業相談所長、竹下昌宏産業振興課長と懇談(松江商工会議所)

「す」と応じました。松江商工会議所の松浦俊彦専務理事はこの間、資金繰りや給付金など1531件の相談が寄せられているとし、「短期では回復しない。長期にわたる支援が必要。国の交付金を増やすよう党として要望してほしい」と訴え。

#### 県保険医協会 特養ホーム長命園

一行は、県保険医協会と松江市内の特養長命園も訪れ、懇談しました。県保険医協会の佐藤進事務局長は、新型コロナウイルスの影響について県内の医師と歯科医師を対象にした緊急アンケート(4月15日実施)では、7割以上の医療機関で患者が減少しているとし、患者が半減した医療機関では職員給与や手当の見直しを考えているところもあると説明。「長期的な患者減少に伴う減収に対する補償を」と求めました。

尾村県議は「医療崩壊を起さないため、医療機関への財政支援が必要。医療費を削減すると患者を病院から在宅・介護施設へ移す地域医療構想の抜本的見直しを求める」と話しました。



雲 来春の市議選、総選挙勝利へ  
出 大田県議、3人の市議予定候補訴え

日本共産党中部地区委員会は14日、出雲市のスーパー前でまちかど演説し、大田陽介県議、来春の市議選に挑む後藤由



雲 固定費支援など直接給付を  
出 大田県議らが市観光協会と懇談

品を一括購入・提供したり、クラスター発生時、行政責任で利用者への代

風雨の中、集まった約40人を前に、大田県議は、国民の声が新型コロナウイルス対策で前進をつくり出しているとし、「国民が声を上げれば政治は動く」と強調。「来春の市議選勝利と総選挙での党躍進、市民と野党共闘の力で安倍政権には退場してもらおう」と呼びかけました。

知性を得た人類が地球上に君臨できているのは、一重にその社会性に拠る。つまり、人と人のつながりの中で地球規模で経済や文化などを通じ社会を発展させてきたからである。そのつながりが、新型コロナウイルスの出現で一気に遮断された▼全世界の国々は、完全に人の往来を禁止し鎖国状態となった。現代資本主義を築きあげたグローバル経済は暗いトンネルへと突入し、東京オリンピックをはじめ文化・スポーツの国際交流もストップした。さらに各国では都市封鎖や外出禁止が敷かれ、1929年の世界大恐慌以来の最悪の景気後退になるといわれている▼「百年に一度の悪いクジを引いてしまったと思う人もいるが、もしかしたらこの先も数年に一度は起こるかも知れない。人間が野生動物の世界に深く入り込み感染の可能性が高まった」と指摘するのは、社会学者の大澤真幸氏である。志位委員長も「環境破壊を顧みない利潤第一主義という生産様式を変えなければ、新型コロナウイルスを収束させるとしても、次のより危険なパンデミックに襲われる可能性もある」と警告▼大澤氏は「僕たちは抜けるのに何年かかるかわからないトンネルの中にいる。トンネルの先は二つの道に分かれ、以前とは違う世界がある」と分析。一つは、「国益最優先のエゴの道」、もう一つは「国際連帯・団結の道」という。今、WHO脱退表明のアメリカ、混乱に乗じて香港への人権抑圧に走る中国、核兵器の先制使用を容認したロシアなどは前者の危険な道に入ろうとしている。世界のリーダーたちは、まだ事態の深刻さに気付いていないのだろうか。(吉)

#### 鼓動